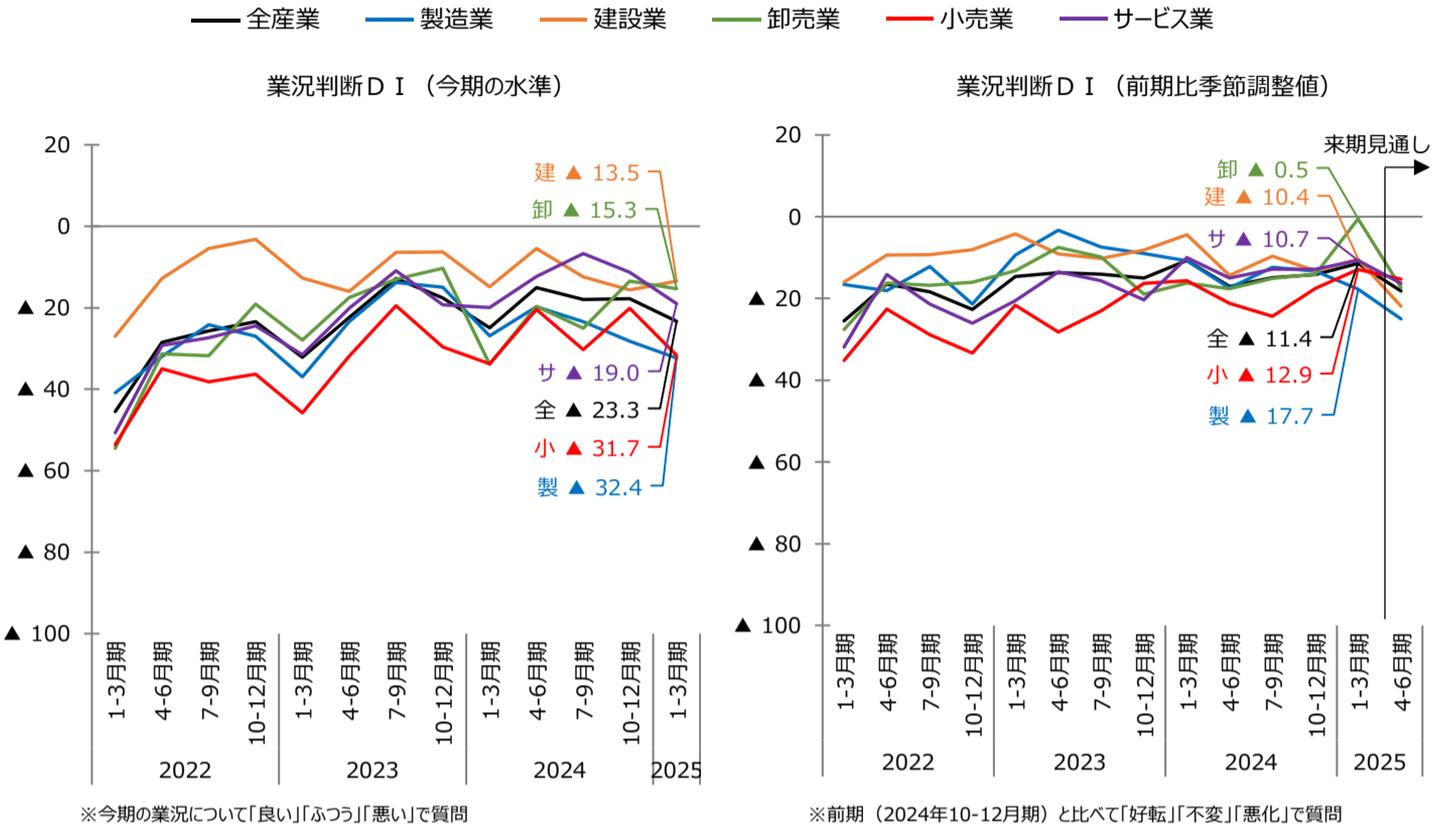


# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 北海道



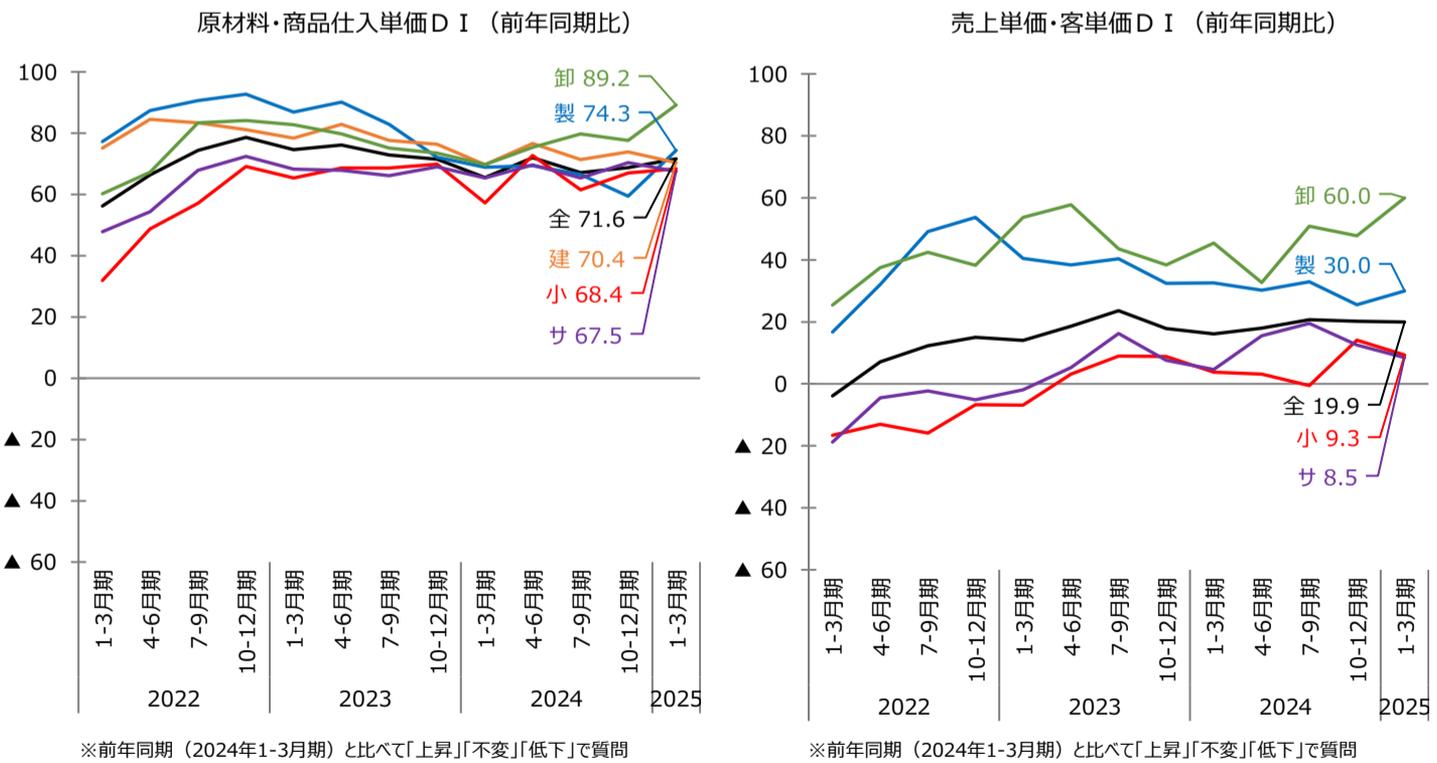
## 1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より5.5ポイント減の▲23.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント増の71.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、小売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の19.9と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、北海道：719企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 北海道

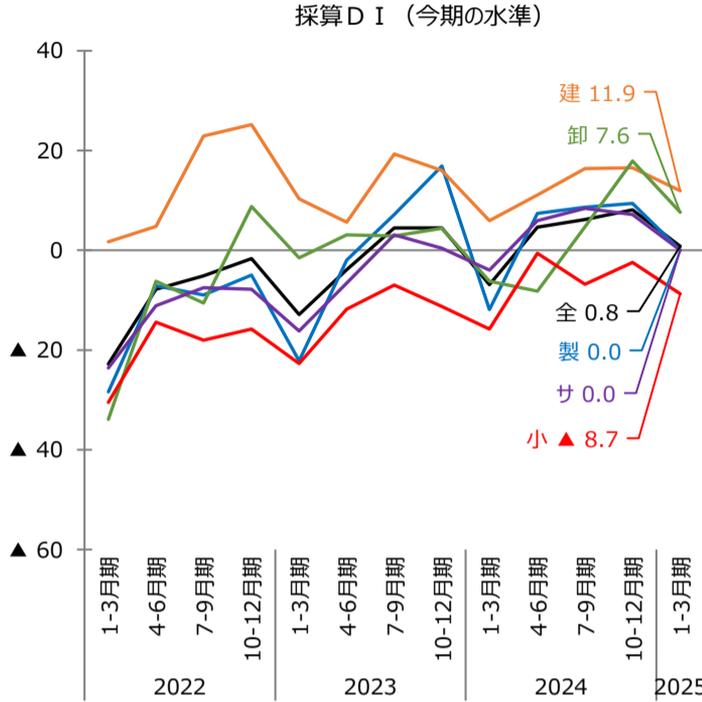


## 3. 採算

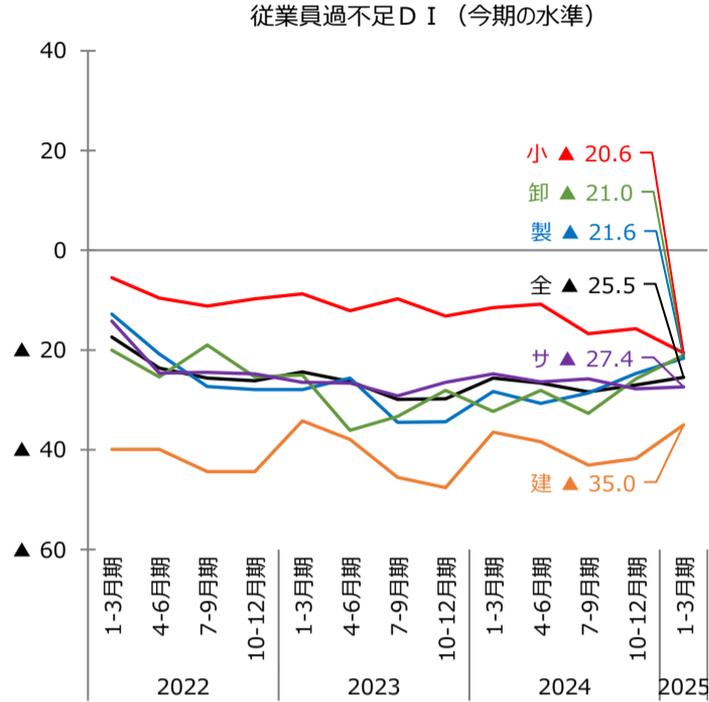
採算DIは、全産業で前期より7.3ポイント減の0.8と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の▲25.5と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、卸売業、製造業、サービス業で上昇し、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	ナメシ料金や取扱商品の単価を徹底的に見直しを掛け改定した。得意先確保がカギとなってくる。大変苦しい状況だが耐えるしかない。	製造業	毛皮製造業
	冬期間に入っているため、未成工事等がひと段落したので売上等は落ち着いている。仕入単価は上昇が止まらず、景気に悪影響を及ぼしている。大型物件が官民問わずない状況において、厳しい景気情勢は続いている。	建設業	一般管工事業
	国内人気アニメ作品の函館を舞台にした上映で、函館の観光客が増加した。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	メインユーザーが高齢者層であり、燃料・食料品の高騰から、服飾品を節約する傾向が強い。インバウンドの需要増で辛うじて不足分を補っている。	小売業	かばん・袋物小売業
	1～3月期は繁忙期に向けた仕込み期間であるため、例年は採算が赤字になっていたが、今期は新規販路が複数確保できたため、収支トントンにすることができた。	サービス業	その他の専門料理店
見通し	12月～1月は当社が取り扱う魚種が減少したが、2月に入りタラの水揚げが例年より増加し、処理数量が増えた。4月からの水揚げ魚種が心配だ。	製造業	その他の水産食料品製造業
	民間需要の停滞が当初想定していた水準より回復せず、特に弊社の主力事業である商業用店舗、ホテル改修工事等は未着手の事業案件が増加している。設備投資は材料の価格上昇に伴い収益の確保が困難な様である。	建設業	一般土木建築工事業
	売上や業況が急激に良くなるわけではないが、良くなる方向へと向かっていると感じる。しかし、そのためには設備投資が必要である。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	米の価格は下がるどころか上がり始め、それに追い打ちをかけるように野菜の価格の上昇が止まらない。消費者の不満の声が以前よりも大きくなっている状況で経費等をこれ以上価格に転嫁することは難しい。	小売業	各種食料品小売業
	年末の売上は思ったよりあったが、仕入率、人件費も共に増加していた。新規事業の宿も営業開始をし、今後売上を伸ばしていきたい。資金繰りはかなり厳しい状況であるため、原価率の見直し等も必要と考える。	サービス業	中華料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

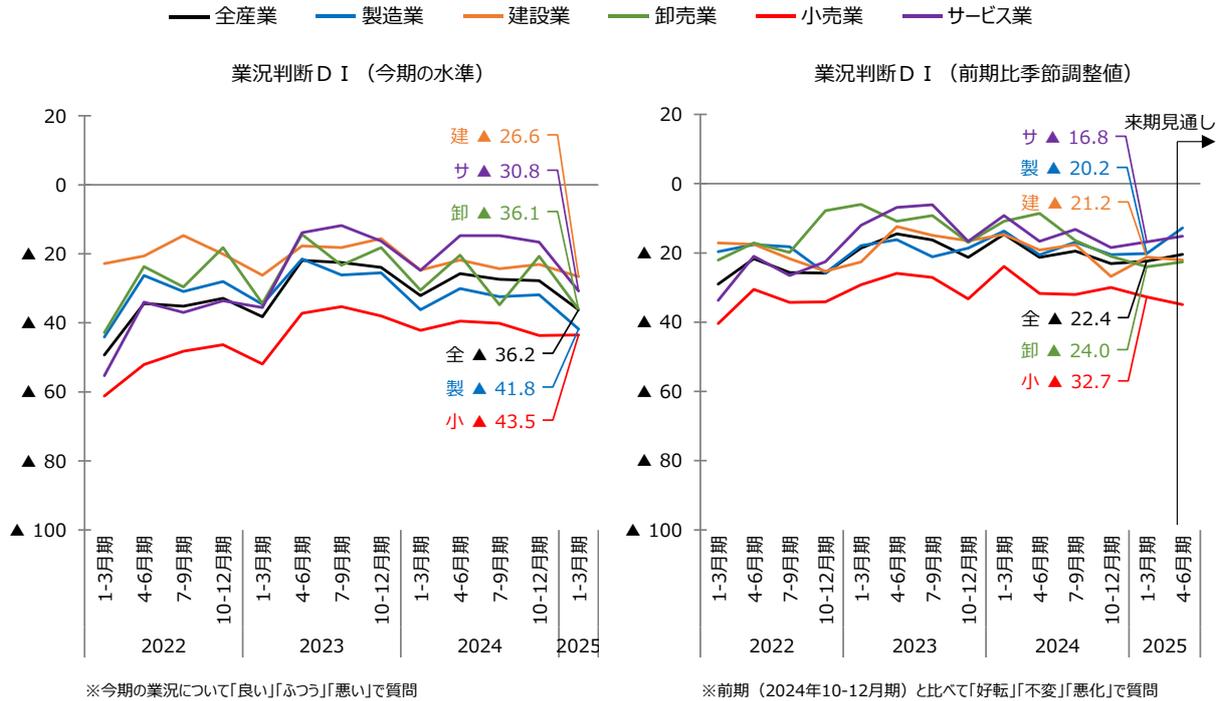
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 東北



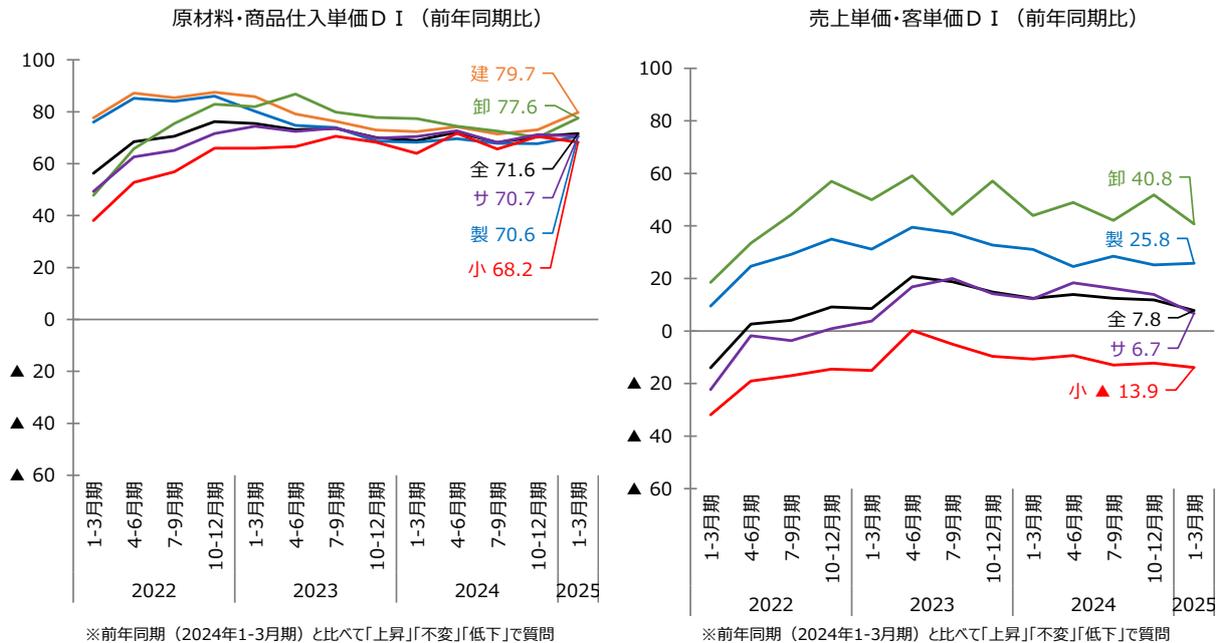
## 1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より8.4ポイント減の▲36.2と3期連続して低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.2ポイント増の71.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の7.8と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、東北：1,799企業

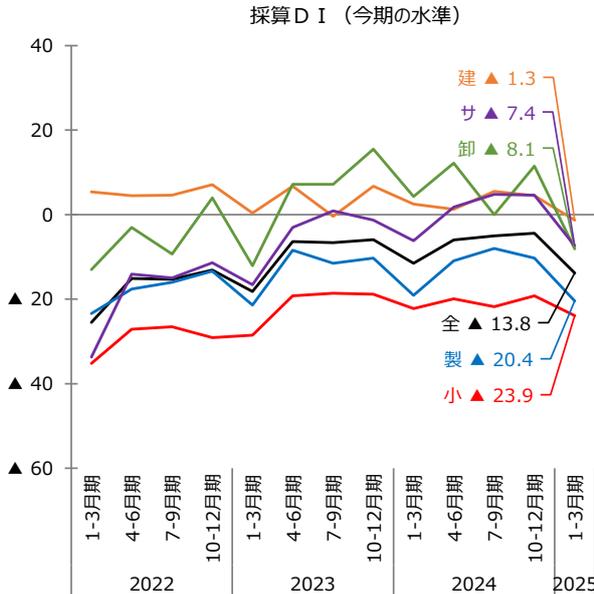
※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 東北



## 3. 採算

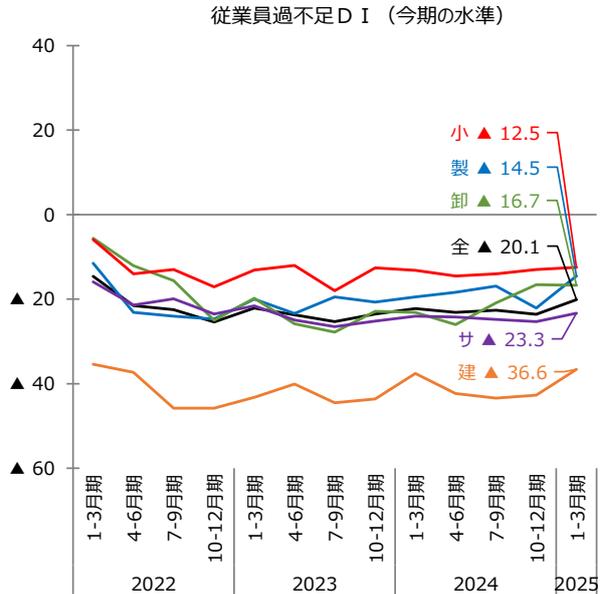
採算DIは、全産業で前期より9.4ポイント減の▲13.8と4期ぶりに低下した。産業別に見ると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.5ポイント増の▲20.1と2期ぶりに上昇した。産業別に見ると、製造業、建設業、サービス業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 東北の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	全体的な景況感が良い様に感じるが、繊維業界を取り巻く環境は日々大きく変化し、コロナ禍又、コロナ禍前よりも悪化している様に感じる。色々な原因があると思われるが、変化に対応しなければならぬと感じている。	製造業 絹・人絹織物業
	技術者の高齢化で職人の確保が大変な時代になった。米の高値で農家の受注が増える見込みだが、物価が定着していない状況なので見積りが大変。また、下請け業者からの単価も気になるところである。	建設業 木造建築工事業
	人件費・利払増・電気・ガス等エネルギー価格の上昇で収益減、厳しい状況にあるが、売価に反映できていない。	卸売業 他に分類されないその他の卸売業
	法事などの注文も簡素化により単価減少、また、盛かごなどに対する持ち込料など経費加算、また従業員の体力低下により営業時間の短縮や休業で売上減少が加速しているとつくづく感じる。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	食堂の値上げをしたが米の価格が急上昇したため年間仕入額上昇は大きいと思われる。また人件費上昇と施設10年経過による修繕やシステム入替などによりリースを組んだため利益が出にくい状況ではある。	サービス業 他に分類されないその他の事業サービス業
見通し	当期は豪雪により原木入荷不足。弊社製造主力商品は、おが粉・燃料チップだが、おが粉は需要に対し生産設備関係から製造に間に合わない。チップは、原木価格の高騰・原材料不足が懸念される。	製造業 木材チップ製造業
	物価高の上昇と共に、材料価格の上昇、下請け単価の上昇が依然として続いており、それに伴い、見積金額も上昇してなかなか仕事が取れず、業況としてはこれからも厳しいと感じている。	建設業 建築工事業（木造建築工事業を除く）
	海水温の上昇により漁獲物に変化が生じていることへの対応に迫られている。また米大統領の動向に注視しており、新たな懸念材料となっている。顧客志向を徹底し来期も安定した業績確保に取り組みたいと思う。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	毎年冬季は需要が停滞するが、今年度は一年を通じて動きが鈍いと感じた。来期も未だ見通しが立たないが、世の中が明るくなる希望を持ち、前向きにできることを取り組んでいこうと思う。	小売業 金物小売業
	物価高騰における仕入高騰はもちろんお客様の来店の変化、特に高齢者の来店頻度が変化している。なかなか新規のお客様の獲得が難しくなり、今後も厳しい状況が予測される。	サービス業 理容業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

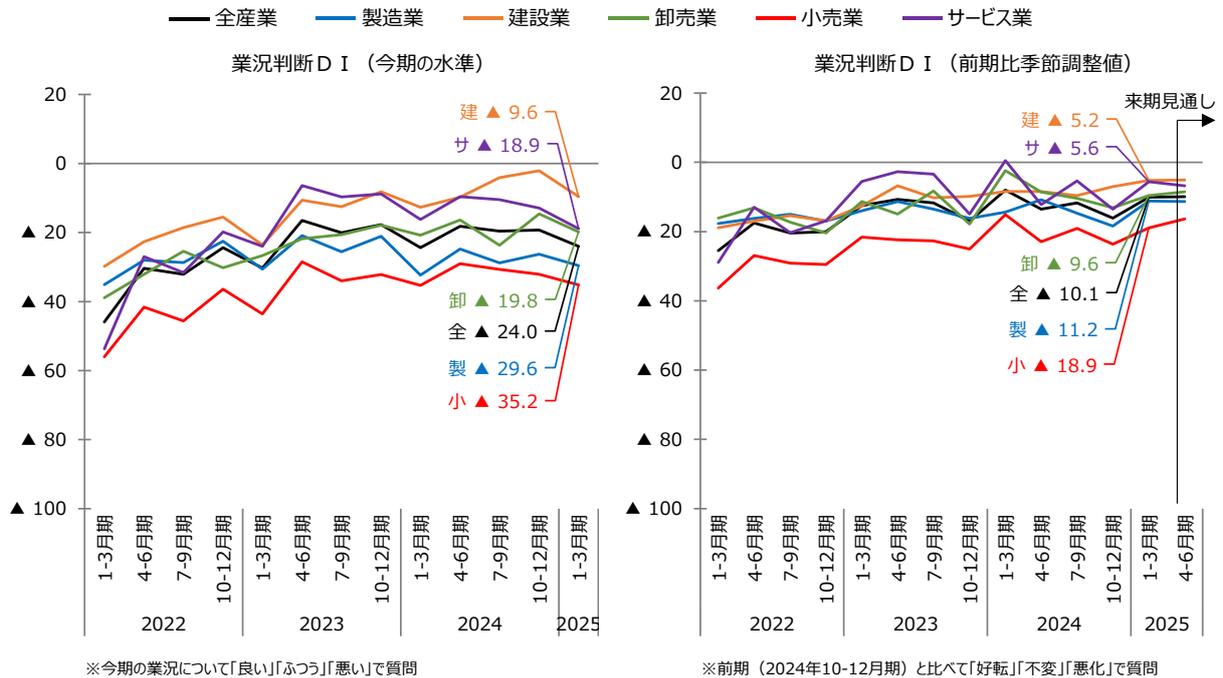
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 関東



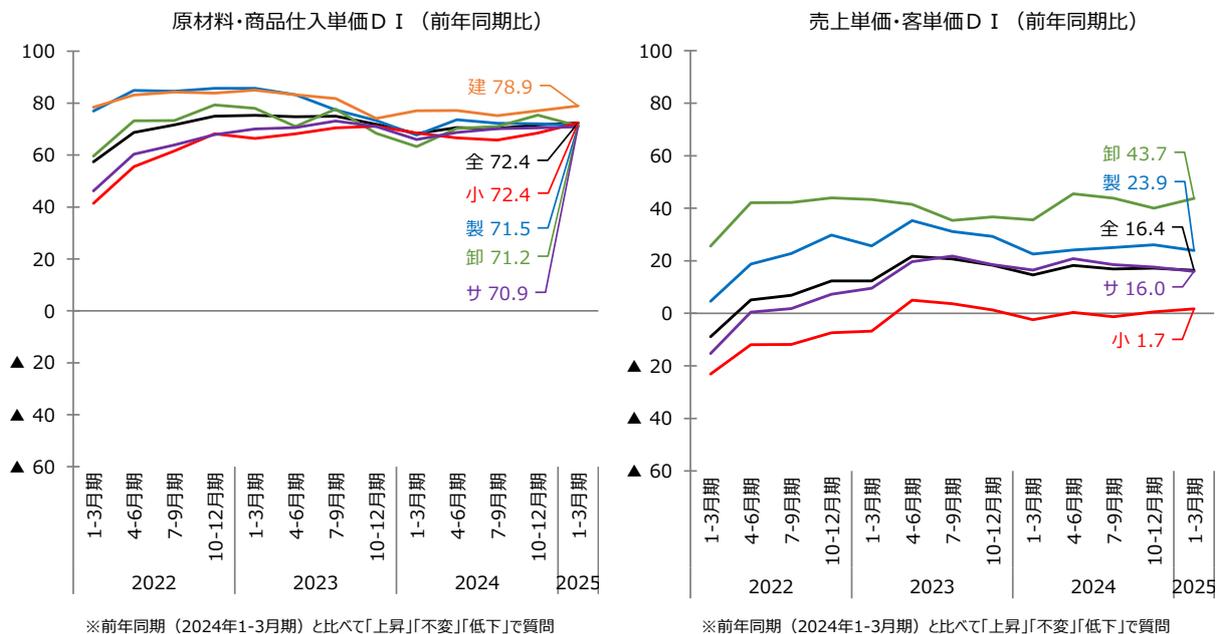
## 1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より4.7ポイント減の▲24.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の72.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の16.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、関東：4,845企業

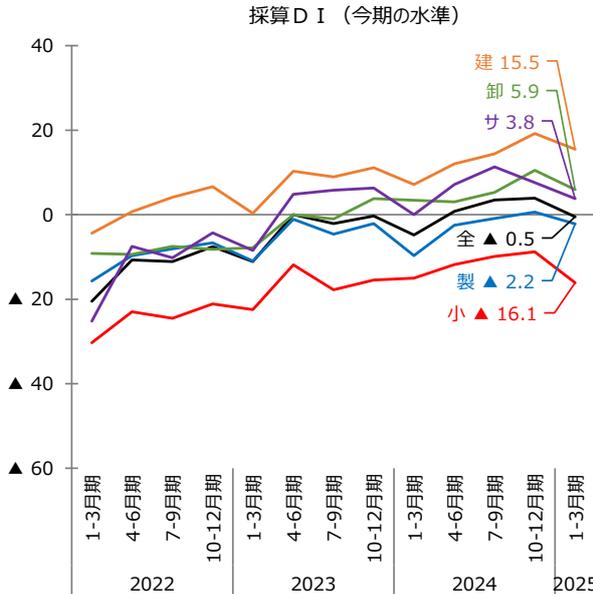
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 関東



## 3. 採算

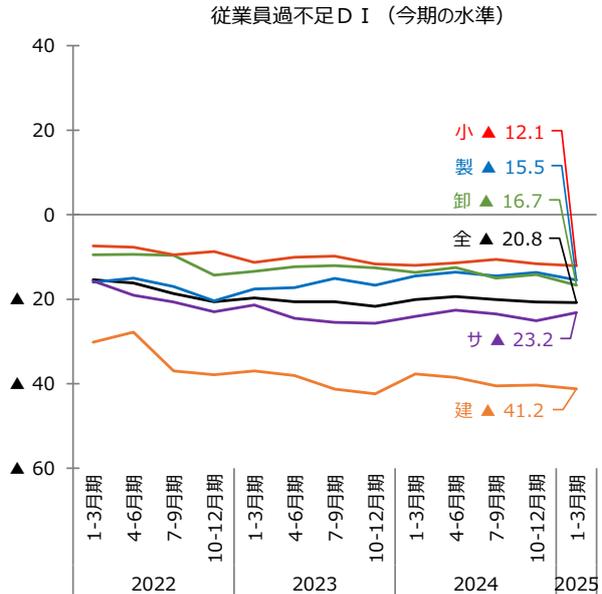
採算DIは、全産業で前期より4.4ポイント減の▲0.5と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲20.8と3期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、建設業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	仕事の引き合いは多くなっている。しかし受注単価金額は安定しない。また、職人や技術者の人手不足は恒常的。仕事の確保、人の確保を常に考えて工夫している。	製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く）
	受注工事は増えても人手不足が問題。人手不足により受注したくてもできない工事もある。また、天候に大きく左右されるので、今年の大雪がかなりの痛手を負っている。	建設業 一般土木建築工事業
	野菜の高騰に歯止めが掛からない。仕入値が上昇しているが、価格転嫁はできている。	卸売業 野菜卸売業
	教科書のデジタル化が進み、消費者ニーズは多様化している。それに伴い、電子辞書など既存のコンテンツの見直しを模索している。人件費や仕入れの高騰化に対応しながら、新しい販売モデルを考えている。	小売業 書籍・雑誌小売業（古本を除く）
	日本人予約は変わらず週末だがインバウンドが好調なため売り上げはコロナ禍前を上回る。ただ事前決済やキャッシュレスが多いためキャッシュフローが偏り、併せて食材費高騰など利益ベースはギリギリ。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	売上はコロナ前の売上に戻りつつあり、資金繰りも昨年度よりも楽になったが、毎年の賃金の引き上げと経費の上昇が売上に対しどのくらいの影響を及ぼすのが心配であり、今後の加工単価の見直しに期待したい。	製造業 その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
	従業員不足で仕事が捗らないため受注や引合いは活発になってきたが、受注可能規模が限られ断るケースや、未消化工事が出ている。土木業界への就職率の低さや高齢化、賃金、キャリアアップの見通しが問題である。	建設業 土工・コンクリート工事業
	主要輸出先であるベトナムの中古品輸入規制強化により、国内の顧客も取引に慎重になっている。今後が見通せず、さらに米国が中国からの迂回輸入を警戒して関税を引き上げる可能性があり、来期の業況は悪化の見通し。	卸売業 その他の産業機械器具卸売業
	米不足と価格の異常な上昇で、大口納入先への対応が出来ず、納入辞退となり、売上面で大きな痛手となった。大雪で燃料油の販売は伸びたが、地域の需要減を補えるレベルにまでは届かない。厳しい状況が続くのでは。	小売業 ガソリンスタンド
	ガソリン代や灯油代など燃料費が上昇しているので大変。他にも米や野菜も高くなっているので仕入れも大変になっている。また、鳥インフルエンザの影響もあり入荷量も減ってきているので今後もしばらく続きそうである。	サービス業 配達飲食サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

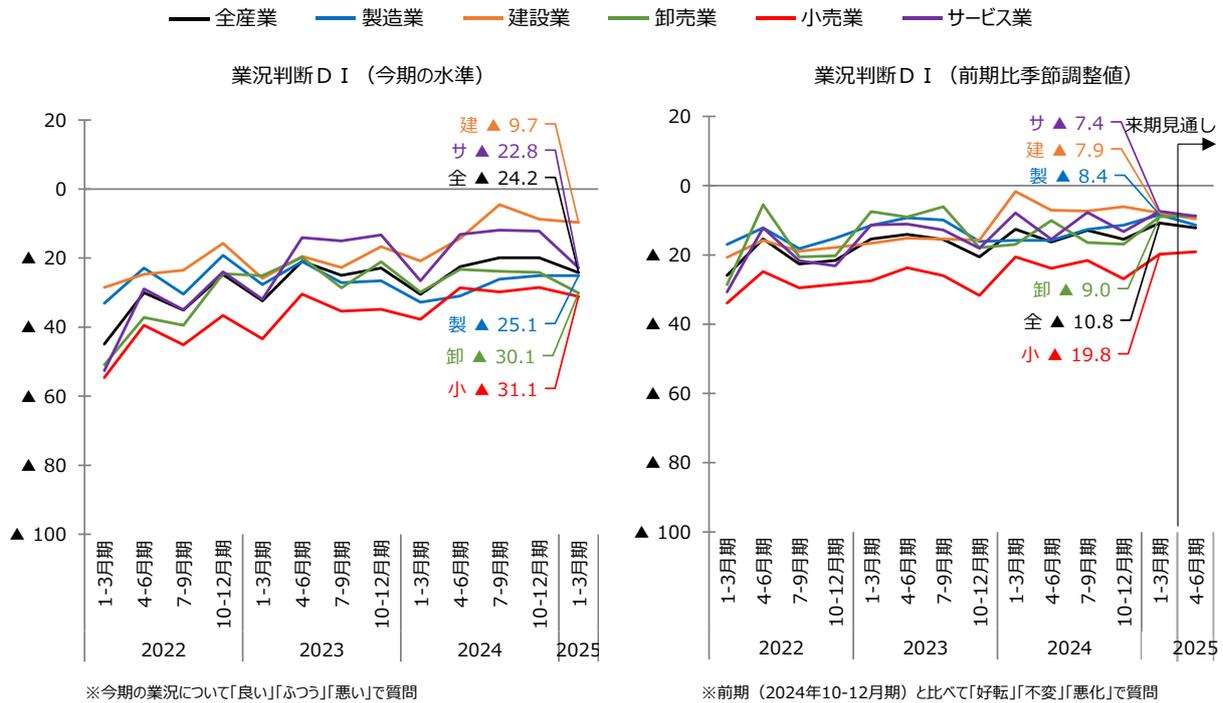
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 中部



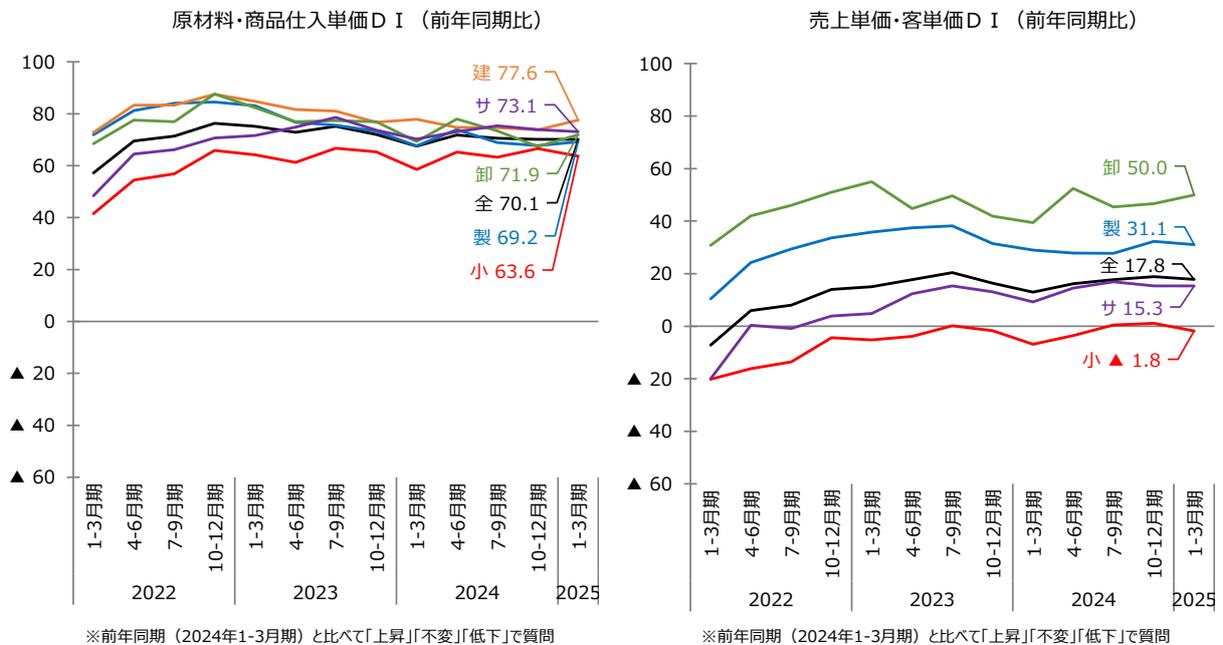
## 1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より4.3ポイント減の▲24.2と4期ぶりに低下となった。産業別にみると、製造業で横ばい、サービス業、卸売業、小売業、建設業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より横ばいの70.1となった。産業別にみると、卸売業、建設業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の17.8と4期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業で横ばい、小売業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、中部：2,263企業

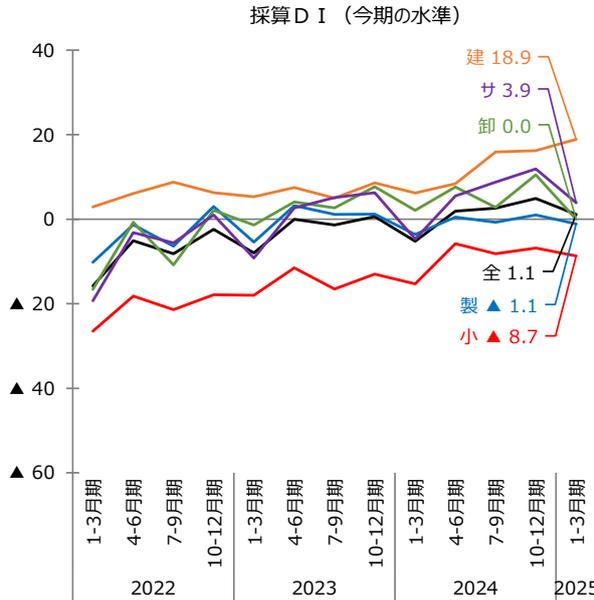
※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 中部



## 3. 採算

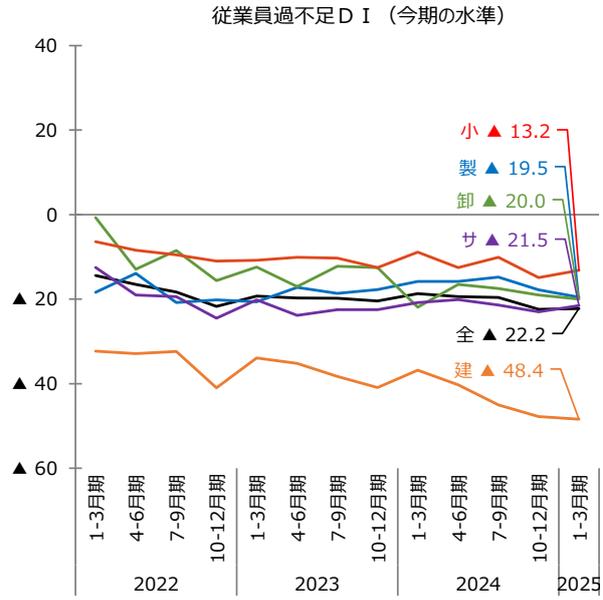
採算DIは、全産業で前期より3.8ポイント減の1.1と4期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の▲22.2と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、建設業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 中部の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	野菜価格の高騰、ガソリン代の高騰、賃上げにより原価が上がって利益が少ない。地域の高齢化が進み、顧客減少で売り上げも厳しいです。	製造業 冷凍調理食品 製造業
	燃料費高騰の影響で問屋の値上げが加速、材料の手配など厳しい状況は続いている。人材に関しては高齢化が進み若手人材の不足が深刻化している。対策はとっていると思うようにいっていないのが現状である。	建設業 金属製屋根工 事業
	キャッシュレス化の希望がある中で、利益から決済手数料を差し引かれることによる負担が大きい。決済手数料分を売価に上乗せできるとありがたい。	卸売業 その他の衣服 卸売業
	認知が増し、客数が増加傾向にある。また、海外のお客様もグルテンフリーで検索して来店している。今後、席数の確保やカフェメニューの増加及び、英語のメニュー表などの対応を検討していかなければならない。	小売業 菓子小売業 (製造小売)
	昨年に比し売上高は変わらないが、ランニングコストはあがっている。社員が減り収益は改善されたが、一人一人の負担は増えた。負担軽減と売上高の維持継続を両立のためには人材の採用が必要だが、人件費増が怖い。	サービス業 広告業
見通し	人材確保のため大幅な賃上げを計画しているが値上げ以外の努力に限界を感じている。今後更なる値上げ交渉をどう進めていくかを熟考しているが、未だに打開策が見つからない。	製造業 強化プラスチック 製板・棒・管・継 手製造業
	地震の影響で受注は増えているが、すべてを受注できておらず、下請業者も不足しているため断ることが増えてきている。来季やその次年に不安が残る。	建設業 板金工事業
	販売単価が上昇して今は利益が取れているが、反面買い控えが始まっているように思われる。これ以上物価が急激に上がると業界としてはかなり厳しい状況になると思う。	卸売業 菓子・パン類 卸売業
	昨年は意外に業績は悪化しなかったが、背景には同業者の廃業により新たなニーズが増えたことにあると思う。しかし今後は需要が停滞するだろうと顧客の高齢化と人口減少の観点から予想している。	小売業 各種食品小 売業
	能登地震の影響は昨年あったが、各種キャンペーンで概ねリカバリーしてきている。しかし諸物価が高騰してきているので、採算性を上げていく必要がある。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

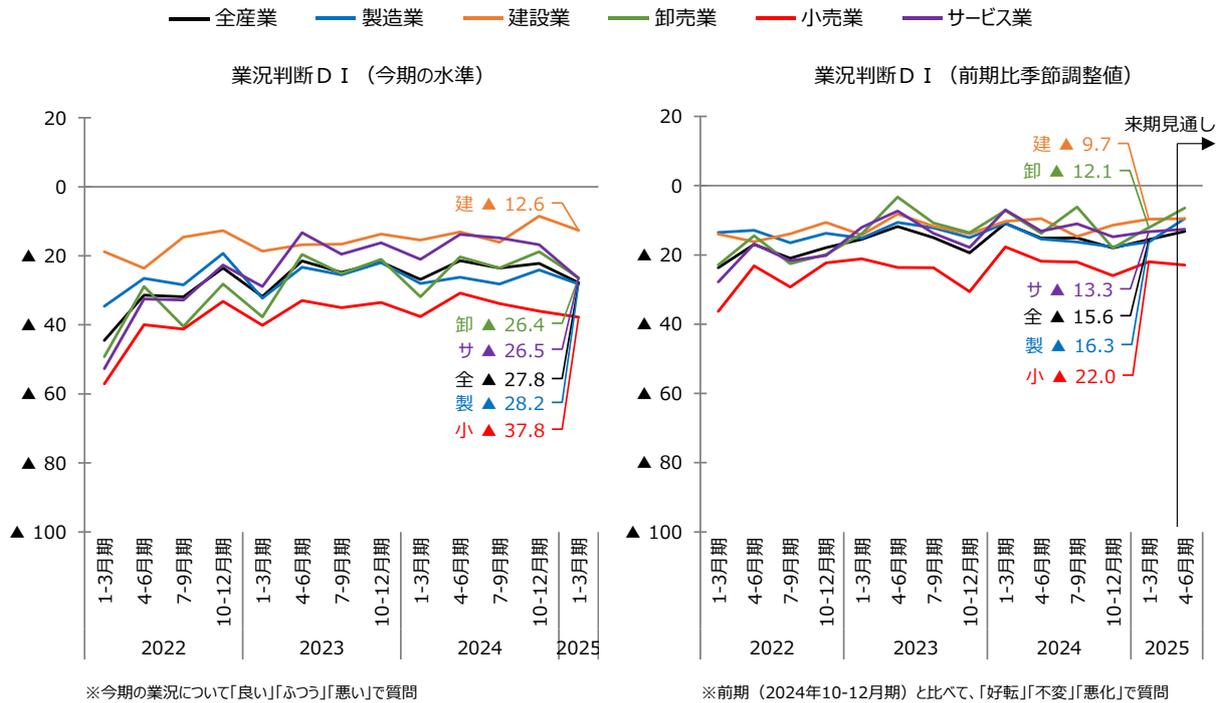
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 近畿



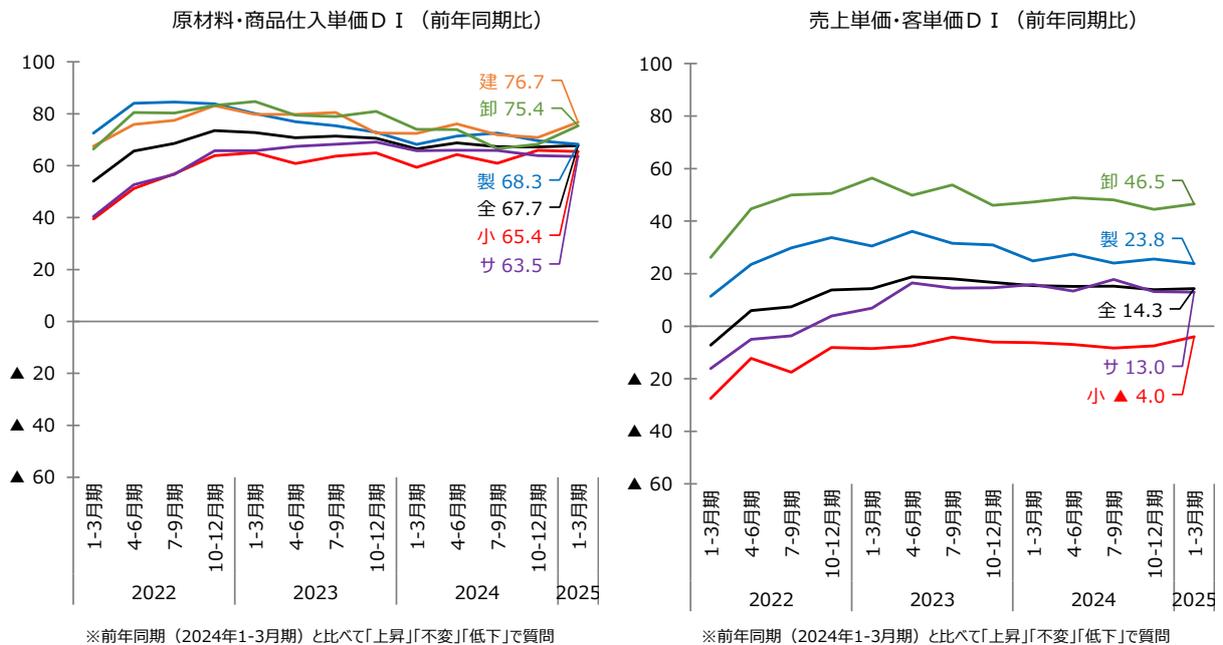
## 1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より5.6ポイント減の▲27.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の67.7と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、製造業、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の14.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、近畿：2,402企業

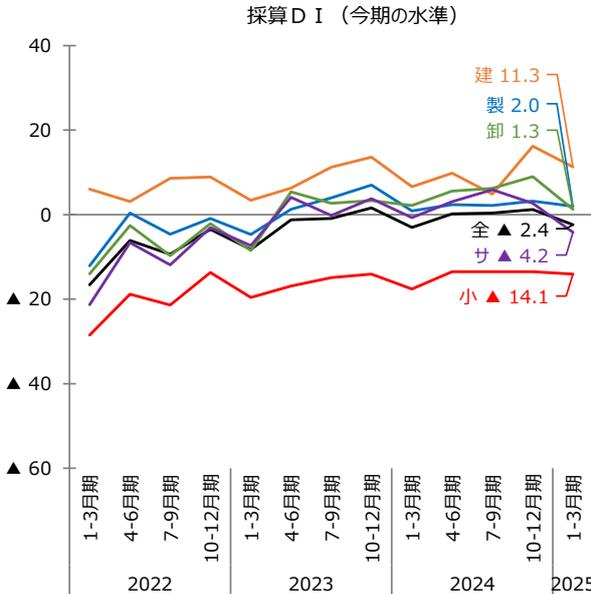
※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 近畿



## 3. 採算

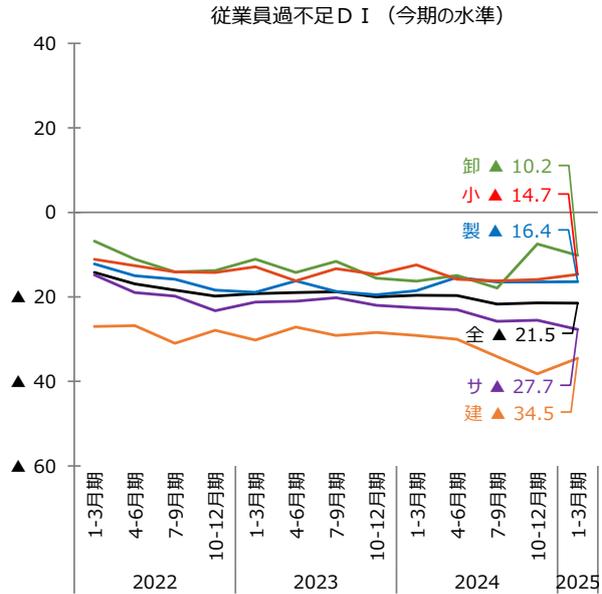
採算DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の▲2.4と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲21.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、小売業、製造業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	主力原材料の銅をはじめ、調達価格が上昇しており、利益を圧迫している。さらに金利も上昇しており、一刻も早く売値に転嫁しなければならぬと思うようにはいかない。	製造業 銅・合金鋳物 製造業（ダイカストを除く）
	仕入単価と職人の手間代の上昇が続いており、問い合わせは通常通りであるものの工事の遂行が厳しい状況になっています。新築需要の停滞も続いており、工期の確保が厳しい状態はしばらく継続しそうです。	建設業 一般土木建築 工事業
	小口（多数）の納入先の小売店に来客がますます減少。主力の眼鏡フレームの受注が減少。仕入単価が上昇し続け、販売先に転嫁すると受注が減少。発注後の納期が長く、欠品が長期になりやすく、売り上げが立たない。	卸売業 計量器・理化学機 械器具・光学機 械器具等卸売業
	日本人の購買意欲の低下を感じます。インバウンドの影響力の強い地域に店舗を構えているので好調ですが、インバウンドが減った時の怖さは感じます。	小売業 各種食品小 売業
	人件費以外の経費や仕入単価の上昇により現状のサービスや仕出し、宴会・宿泊料金など値段の現状維持が難しい。値段の変更も難しいが内容の変更も難しく、低価格の仕事が出来なくなってきた。	サービス業 簡易宿所
見通し	一年間を通じて国内海外ともに需要の停滞感及び原材料等のコストアップにより製品の値上げを三年続けて上げたことに要因もあるのではないか、ようやく来期あたりから少し動きが出て来る模様。	製造業 農業用機械製 造業（農業用 器具を除く）
	官公需要の停滞、特に年度繰越工事発注が少なくなっている。その他、設備や機械の老朽化が進んでおり更新が必要だが、設備投資が思うようにできない状況である。	建設業 土木工事業 （別掲を除く）
	今期に関しては自社も含め、在庫調整が続いており需要に力強さがなかったが、来期以降は万博やインバウンド需要等の好影響もあり徐々に業況は上向くと考えている。人件費・金利上昇によるコスト増には注視したい。	卸売業 電気機械器具卸売業 （家庭用電気機械器 具を除く）
	物価高はとどまるところを知らず、固定費の値上がりもボディーブローのように響いてきている。設備投資を行うにも運転資金の捻出に必死で、そこまで余裕がない。次期は借入れ必須。過少在庫にも限界がある。	小売業 酒小売業
	物価高騰により更に消費者の低価格志向が進み顧客の利用回数が減ってきている。また地域的に高齢化が進み人口の減少が止まらなく、見通しは暗い。	サービス業 理容業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

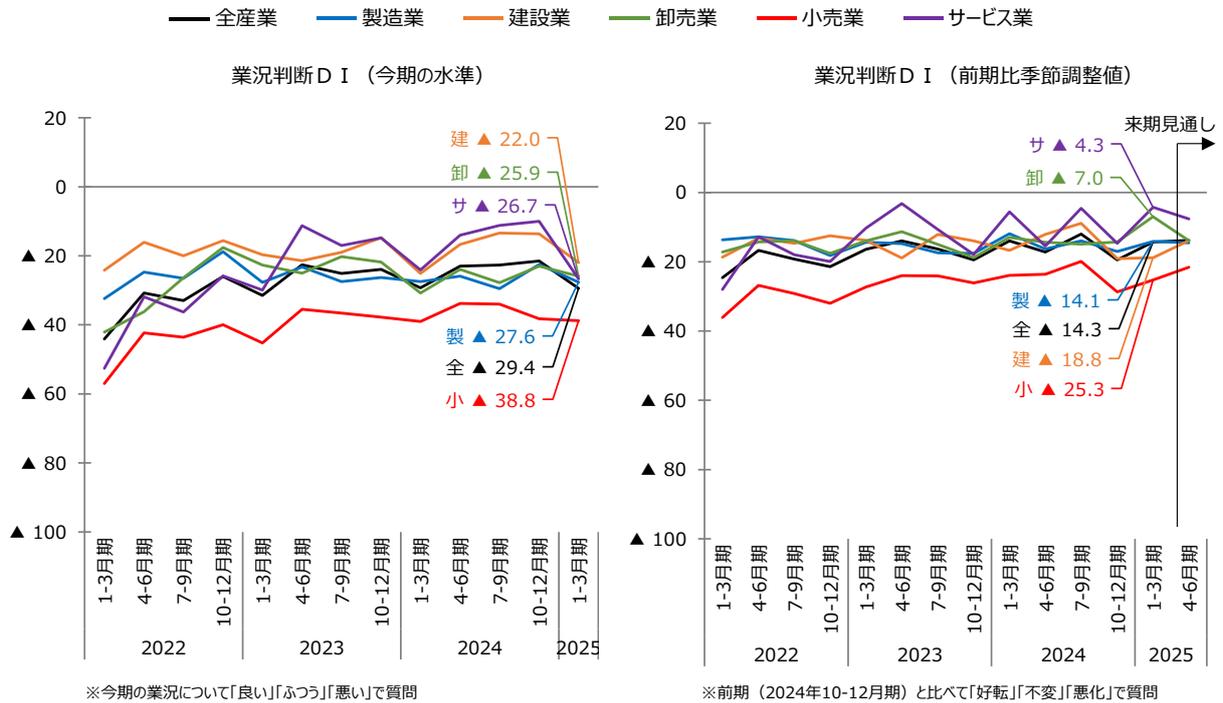
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 中国



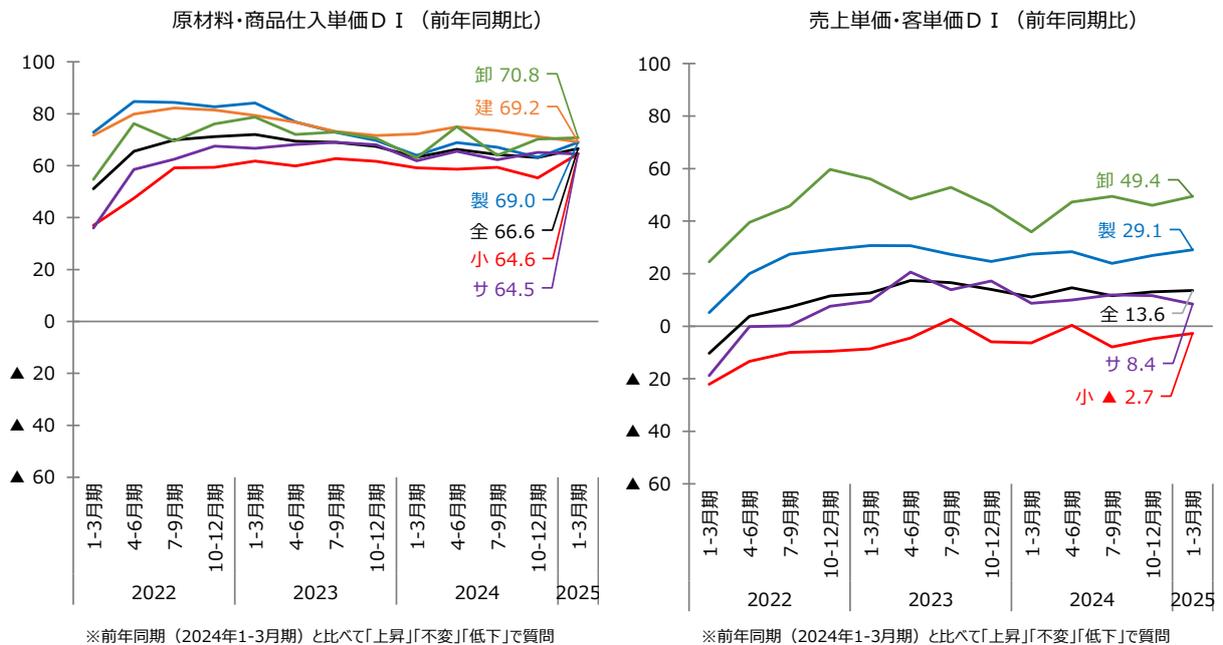
## 1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より7.9ポイント減の▲29.4と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.5ポイント増の66.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、製造業、卸売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の13.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、中国：1,607企業

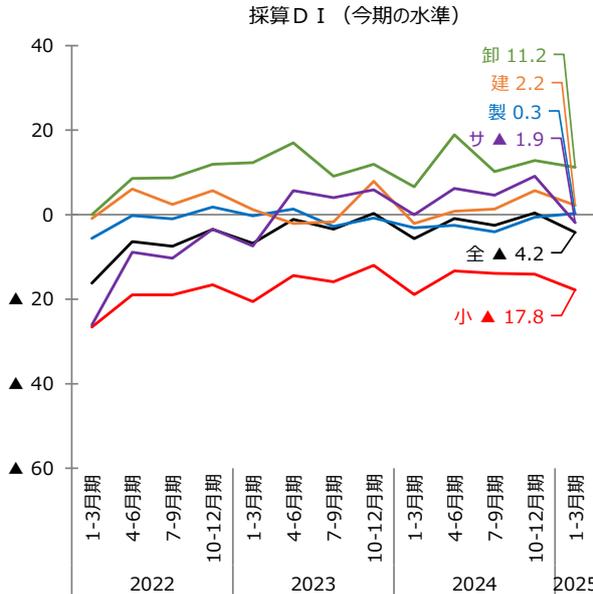
※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 中国



## 3. 採算

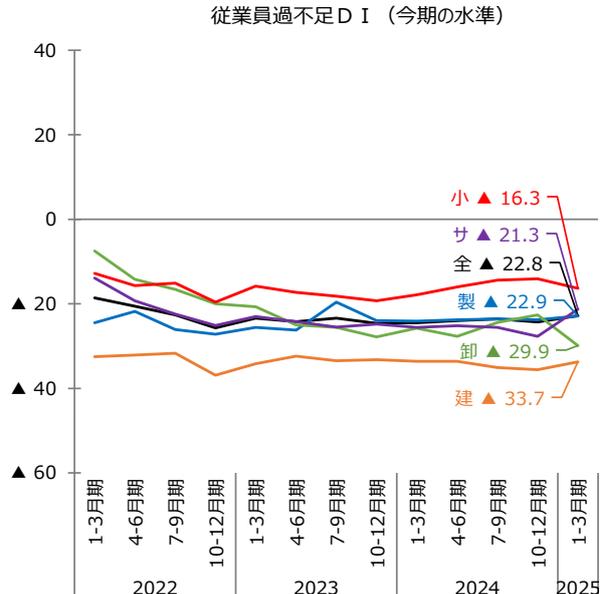
採算DIは、全産業で前期より4.6ポイント減の▲4.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、サービス業、小売業、建設業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の▲22.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	近1～2年は工作機械は自動車関連、半導体製造装置はメモリーの設備投資が低調であり、業況は悪い状態で推移している。	製造業 金属工作機械 製造業
	この季節は天候に左右される為、売上に繋がらない。給料などの固定支出はあるのに、資金繰りが難しい。元請け優先でやりたいが、仕事をするために下請けもしないとけない状況である。	建設業 左官工事業
	2月に寒波が日本列島に来て、再度冬が来て非常に厳しい状況である。アメリカ新政権もスタートし、過度な関税などで景気も悪くなっている。衣料品に対しても支出が減っていると感じる事も多く、浮上しにくい環境だ。	卸売業 婦人・子供服 卸売業
	食品単価と比べて生花やその他資材の単価が上昇していることは認知されていない。人件費が増加しても客単価が上がらない。予約来店する方が少ないため、その方々の為の花を在庫として抱える為フラワーロスが多い。	小売業 花・植木小売業
	物価高騰により顧客がシビアになっており、単なる買い控えではなく、値ごろ感を求めている。今後、更なる経費の上昇が予測されるため、他店との差別化を図る工夫も必要である。	サービス業 食堂、レストラン (専門料理店を除く)
見通し	委託加工は悪いまま続きさらに悪くなってきて回復の見通しはない。資材関係も原料高騰により調整のため減少している。和紙糸は需要が広がり試験糸がひときわ多く大変忙しくなり、営業努力が特に必要で頑張っている。	製造業 ねん糸製造業 (かさ高加工糸を除く)
	人出不足の影響で仕事も受けられない状況が続いている。給料面を手厚くしても職种的に難しいのだろうと感じる。経費等上昇に売上を増加させるのは難しい点がある。今後、今の水準を保つにはどうすべきかが課題である	建設業 一般土木建築 工事業
	令和7年1月末現在、売上高は前期比△272百万と大きく減少となっている関係もあり、総利益など全体の収益も大きく減少となっている。今後の見通しも厳しく楽観できない。	卸売業 金属加工機械 卸売業
	ガソリン価格の高止まりのみならず食料品などの値上がりでしばらくは需要停滞の波が続くそう。昨年はシステムの導入を行ったが今年は整備機器を新調するなどして販売力を高めていきたい。	小売業 ガソリンスタンド
	材料等仕入価格の上昇や電気代の高騰の影響により収益にも影響が及んでいる。当地域内における同業他社の新規参入が今後どのような影響を及ぼすか等懸念を抱えている。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

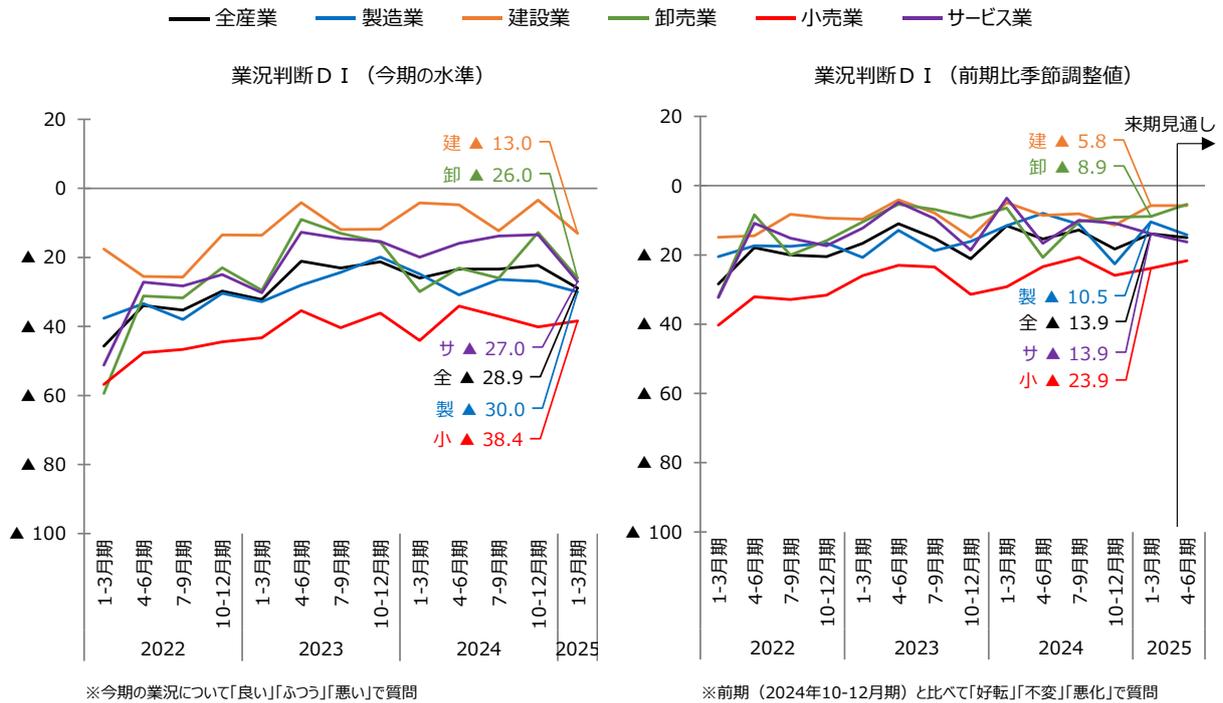
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 四国



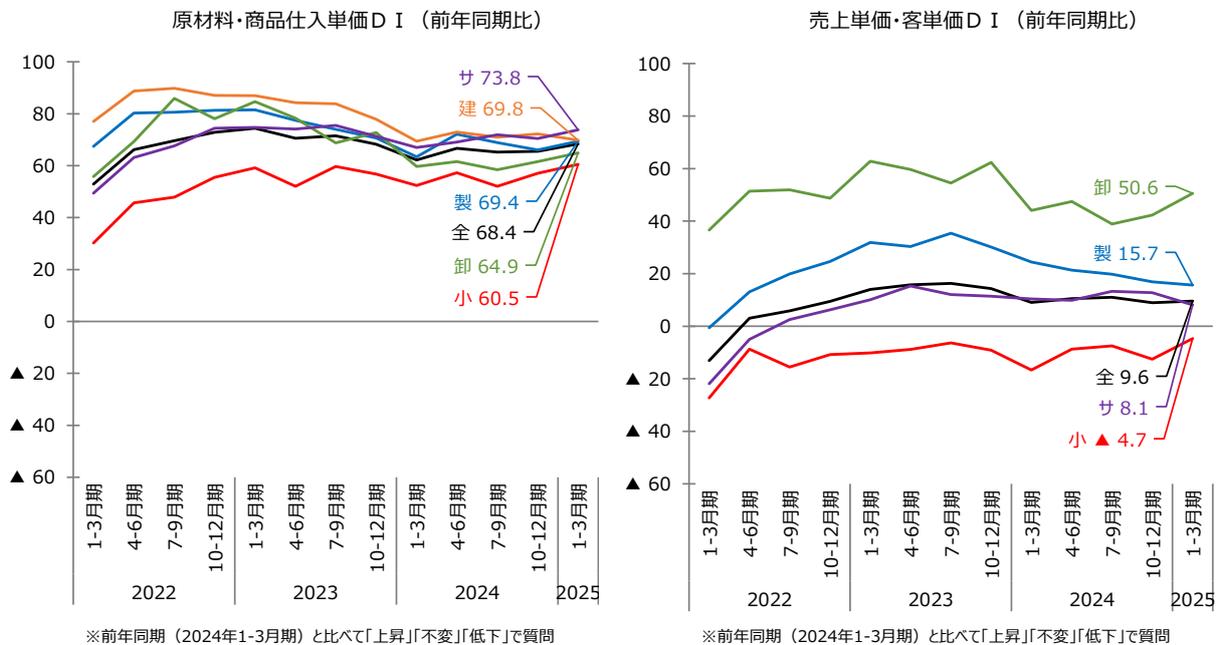
## 1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より6.6ポイント減の▲28.9と4期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、サービス業、卸売業、建設業、製造業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント増の68.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の9.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、サービス業、製造業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、四国：1,265企業

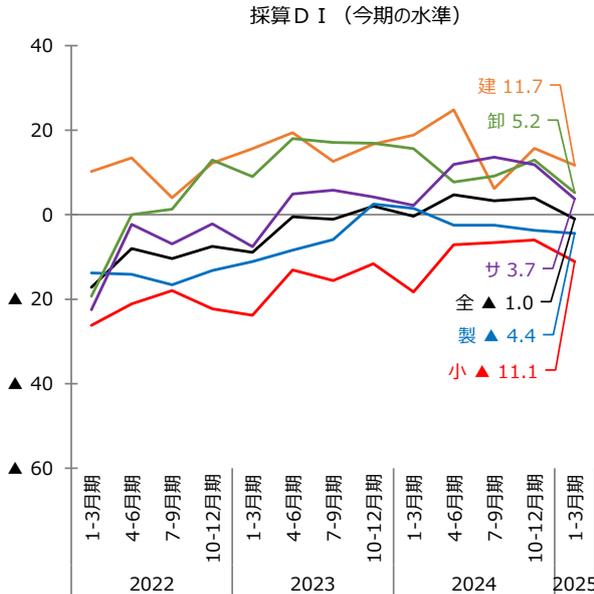
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 四国



## 3. 採算

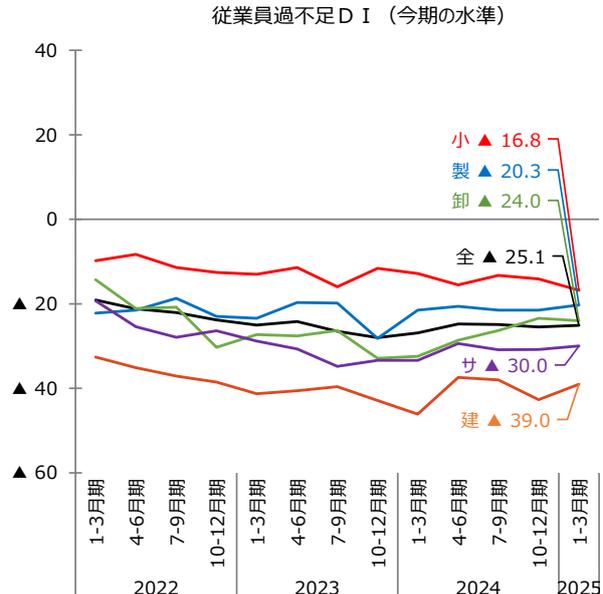
採算DIは、全産業で前期より4.9ポイント減の▲1.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の▲25.1と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 四国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	春は生の菓物（よもぎ、すぎな、どくだみ等）の入荷数量が減少しそうである。採取者の高齢化と減少によるものである。当社の経営課題は原材料確保であるが、人材不足等のため対応できる体制になっていない。	製造業 生菓・漢方製剤製造業
	物価高に伴って材料価格、人件費は増加しており、しかし施主様の事も考えると請負単価をそれほど上げる訳にいかないの、高い人件費でも早くきちんとした仕事のできる熟練技術者の重要性を感じた。	建設業 塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	四月の多くの酒類価格改定が控えている。酒類専業なので嗜好品の宿命として需要の停滞は免れない。人口減少と重なり、活力を失うのが辛い。	卸売業 酒類卸売業
	SDGsの取り組みの普及もありリユース品に対するの理解や、昨今の物価高の影響もあり需要はある様に思う。半面、制服のジェンダーレス化、体操服のデザイン生地変更が多く、買取の減少、在庫の処分等課題が多い。	小売業 中古品小売業（骨とう品を除く）
	周囲をみていると廃業する同業者が増えてきている。業態転換やニーズにあったものを提供できるようにならないといけない。	サービス業 学習塾
見通し	自社の業況は元請造船所の業績に依存して変動する。今後は船舶建造のピッチが上向き、受注の量と単価の上昇を見込む。人材確保、賃上げした人件費や諸経費・仕入の上昇を吸収する単価向上による価格転嫁が課題。	製造業 船舶製造・修理業
	人員不足のため、現在の人員数なりの仕事量しか受注できない。そのため新規顧客の開拓も難しく、取引業者の高齢化による廃業が増えていくことによって取引業者が減っていくことが心配。	建設業 建築リフォーム工事業
	値上げ交渉を重ね、売上は増加しているものの、全体的なコストアップを補うに足らない状況が続いている。今後も更なるコストアップが予想され、厳しい状況は続く。	卸売業 その他の食料・飲料卸売業
	ガソリン、米、野菜等の価格高騰で、消費が落ち込んでいる中で、高齢者の入院や入所など、客数が伸びなくなっている。何らかの物価対策でもない限り、来期も厳しくなると予想している。	小売業 各種食料品小売業
	個人店舗向けのアプリ開発などが進みニーズが変わってきている。ソフトのサブスク料金の値上がりもあり、それを見込んだ料金の改訂なども検討していかなければならないと感じている。	サービス業 受託開発ソフトウェア業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

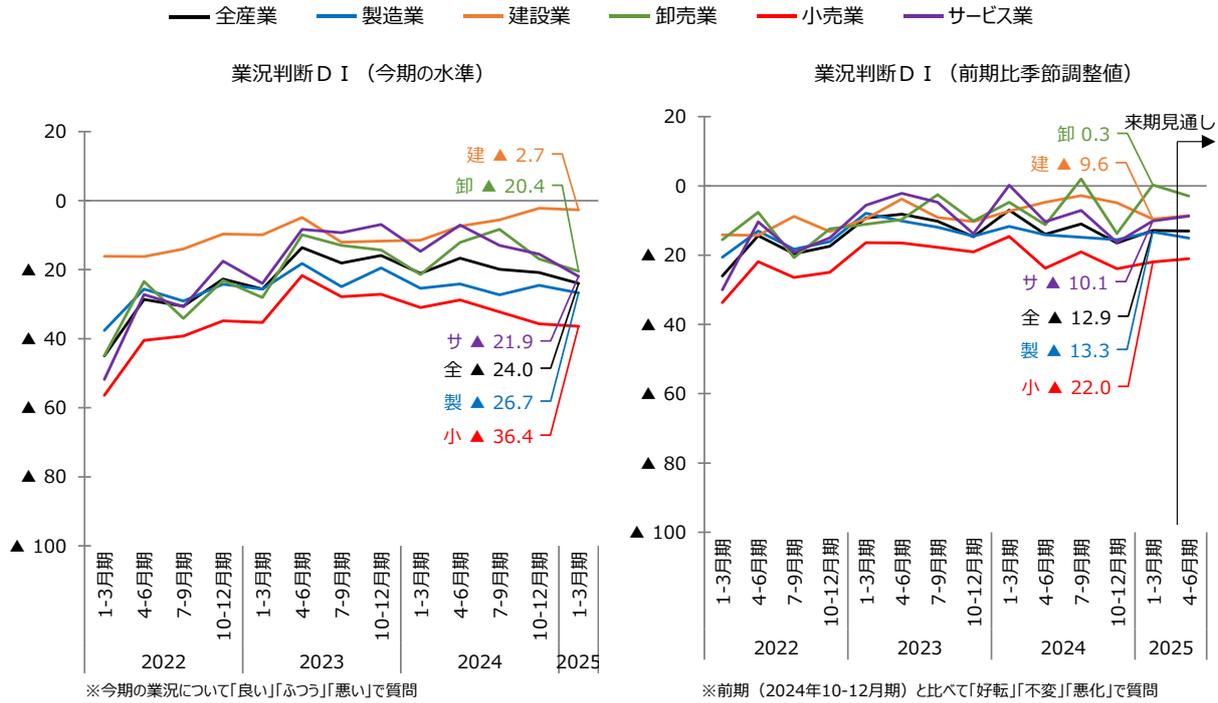
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 九州・沖縄



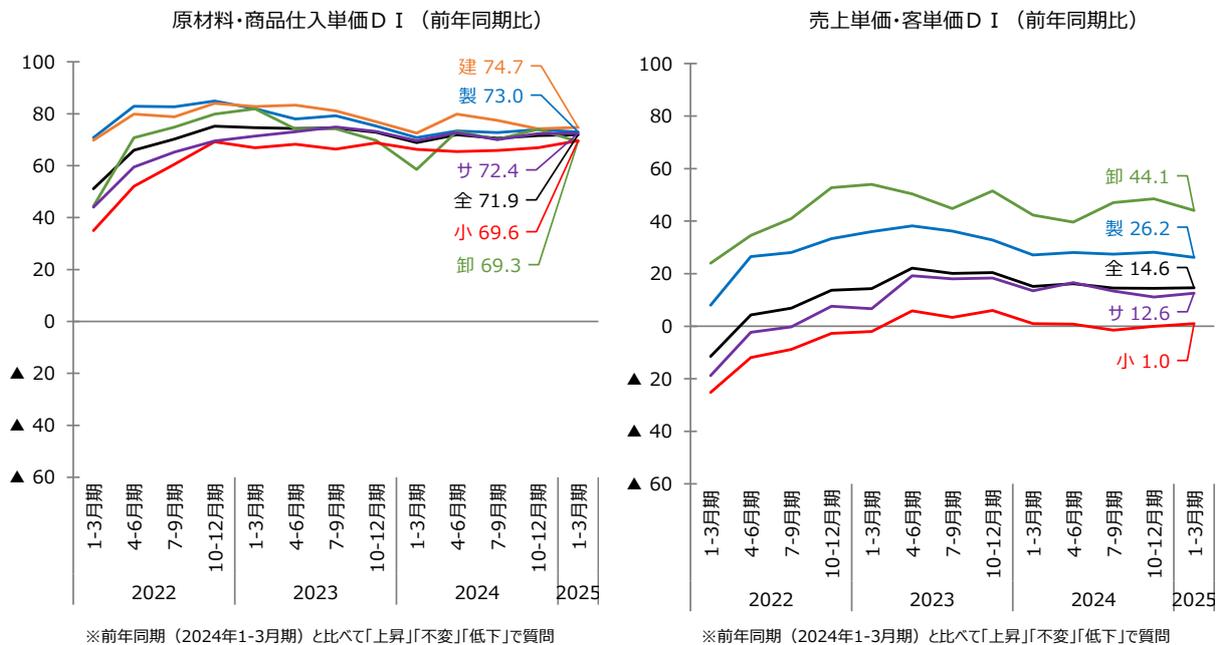
## 1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より3.2ポイント減の▲24.0と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の71.9と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の14.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、九州・沖縄：2,754企業

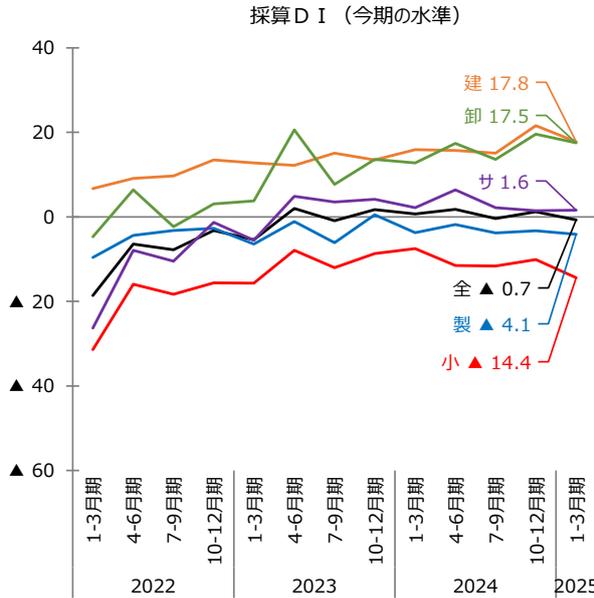
※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

# 第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 九州・沖縄



## 3. 採算

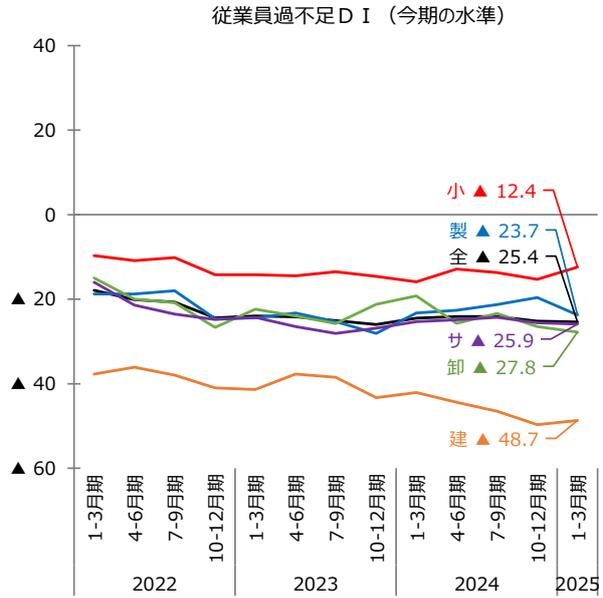
採算DIは、全産業で前期より1.9ポイント減の▲0.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、建設業、卸売業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の▲25.4と2期連続して低下した。産業別にみると、小売業、建設業で上昇し、製造業、卸売業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 九州・沖縄の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	今期は、積雪により仕事ができない日が多く残念であった。雪が降らなければ、前年同期よりも売上が増加したと思われる。	製造業 鉱物・土石粉砕等処理業
	資材の度重なる高騰に困っている。そのため、昨年と比べ著しく仕事が減少している。従業員、職人たちの給料を増やしたいが、増やせない状況にある。	建設業 建築工事業 (木造建築工事業を除く)
	フィルム袋関連が中心であり、相場の上昇に左右される。また農業関連の出荷資材も最近の気象障害で大きく影響を受けている。	卸売業 紙製品卸売業
	需要と供給のバランスが悪く、リードタイムが長くなり、上手く回っていない。機械化やDX・AIの活用を模索している。	小売業 その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	資材等の高騰により分譲地開発の利益が減少している。また、金融機関の金利上昇に返済額も増えている。建築資材も高くなっているため、住宅を建てるお客様も少なくなっていると感じている。	サービス業 不動産代理業・仲介業
見通し	弊社売上の大部分を占めるクライアントからの引き合いが大幅に減少、先行きも不安である。提供できるサービス品目を増やすこと、新規顧客の獲得が急務である。	製造業 印刷関連サービス業
	業界のマーケットの縮小、物価高騰による買い控えの影響を強く感じる。新築着工棟数はピーク時の半減となっており縮小傾向に向かっている。取扱商品の増加、大型工事へのシフト、ターゲット変更等の対策を検討中。	建設業 塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	米の相場の高騰に伴い販売価格は上がったが取扱量は減っている為、売上高としてはほぼ不変である。業況の好転には、相場を維持したまま取扱量を増やす、新事業を育てるなどの新たな取り組みが不可欠と感じる。	卸売業 米麦卸売業
	未だにインバウンドの来店数は増加傾向にあるが他の地域との格差があると思う。これからは安定的に日本人の利用客が来店できる様に創意工夫し、インバウンドの来客が減少しても耐えられる資金力をつけなければならないと思う。	小売業 酒小売業
	今年は材料仕入れ単価の上昇や日本全体の物価上昇による需要の停滞により、もともと1～3月の客数は減る傾向にあったが、今年は特に極端だった。4月からまた物価上昇予定があるので利用料金の値上げを考えている。	サービス業 他に分類されないその他の事業サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。